

第2期中期目標期間の 業務における重点的取組



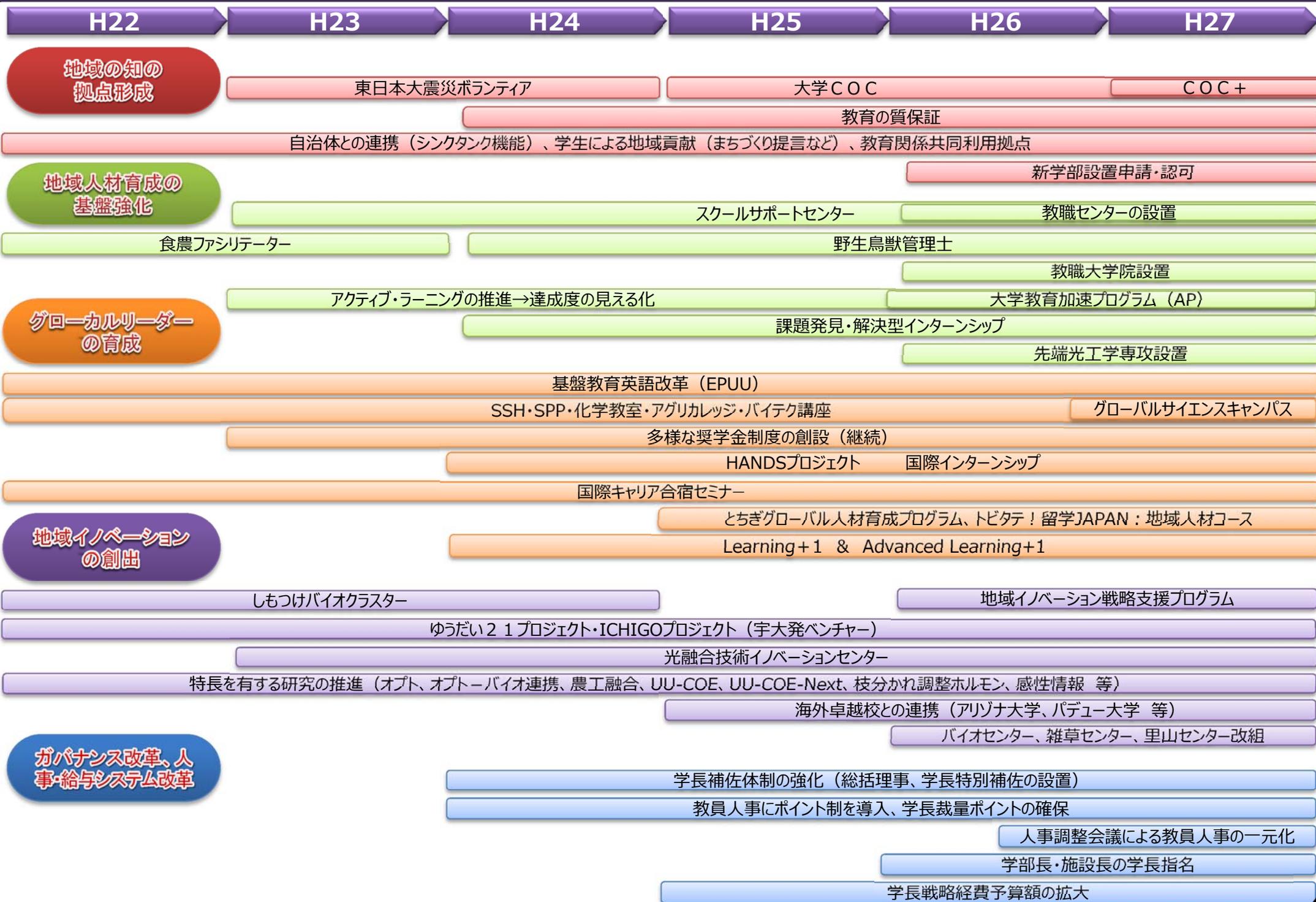
国立大学法人 宇都宮大学

Challenge Change Contribution



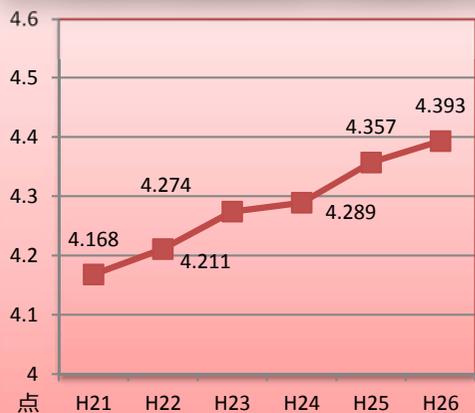
○第3期重点戦略の基盤となった取組実績 -----	1
○数字で見る取組の成果 -----	2
○地域の知の拠点形成に係る実績 -----	3
○地域人材育成の基盤強化に係る実績 -----	4
○グローバルリーダー育成に係る実績 -----	5
○地域イノベーションの創出に係る実績 -----	6
○ガバナンス改革、人事給与システム改革に係る実績 -----	7
○第3期重点構想の概要 -----	8
○業務運営の改善等に係る取組 -----	9
○「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組 -----	9

第3期重点戦略の基盤となった取組実績

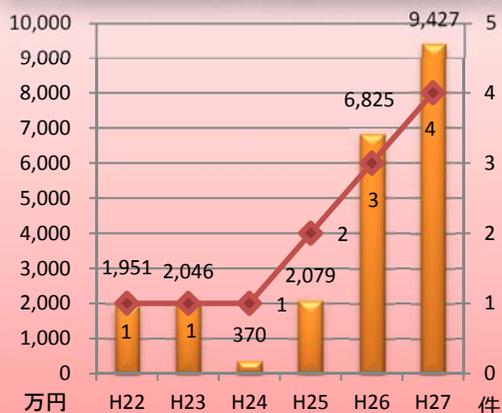


数字で見る取組の成果

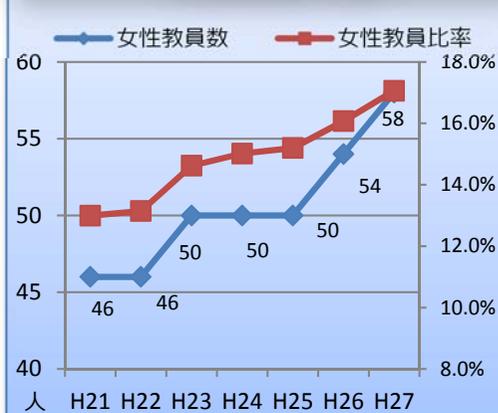
学生による授業評価（5点満点）



教育関連競争的資金の獲得状況



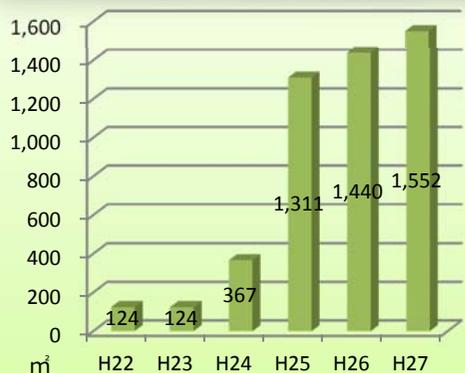
女性教員数・比率



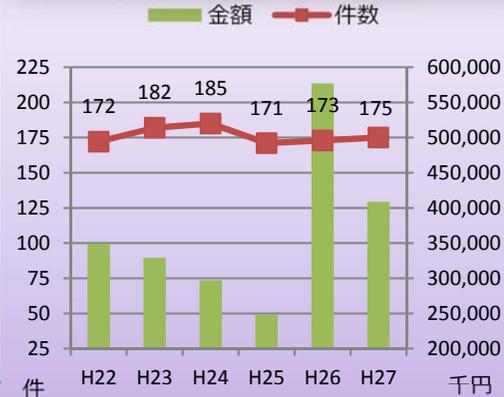
学長戦略経費配分額



ラーニング・コモンズ等の整備



外部資金獲得件数・獲得額



就職率（学部学生）



海外留学学生数



TOEICスコア



その他の顕著な実績または変化

- 大学院生の満足度（H27）やや満足以上授業→**89%** 研究活動→**88%**
- 教員就職率（学校教育教員養成課程）H22:51.4%→H26:**71.3%**、H27:67.1%
- 日本人学生の海外留学 第1期**177人**→第2期**637人**
- 就職先企業アンケート結果（学力）基礎学力（非常に高い・高い）**86%** 専門知識・技術力（同）**69.2%**

地域の知の拠点形成に係る実績

新学部「地域デザイン科学部」設置

H26設置申請→**H27認可**→H28設置

地域の強み（地域資源・地域特性）を活かしたまちづくりを支える専門職業人の育成



新たなまちづくりに向けて社会システムを支え、魅力ある地域をデザインする
学生定員50名 専任教員13名



建築を学び人にやさしい居住環境や都市をデザインする
学生定員50名 専任教員14名



最先端の科学技術を融合して安全で持続可能な社会基盤・都市機能をデザインする
学生定員40名 専任教員14名

附属施設



宇都宮大学地域デザイン科学部附属
地域デザインセンター

地域と大学とのハブとなって、共同研究、地域連携プロジェクト等の教育研究等を推進する

地域の未来を科学の力で



教育関係共同利用拠点（農学部附属農場）

第2期認定 **H27**～H31

第1期（H22～H26）

—首都圏における食・生命・環境の複合型フィールド教育共同利用拠点—

特長 各大学の要望に合わせたオーダーメイドの実習プログラムの提供

実績 参加大学数(延べ):73大学、参加者数(延べ):1,292名

高い満足度

第2期（**H27**～H31）

—食と生命と環境が有機的に融合した実践科学を学ぶ農学フィールド教育拠点—

実績 参加大学:自治医科大学、帝京大学、女子栄養大学、武蔵野大学、日本女子大学、人間総合科学大学、神奈川県立保健福祉大学
参加者数(延べ):317名



知（地）の拠点整備事業（大学COC）

H25採択→**H27成果**→H29完了

—とちぎ高齢者共生社会を支える異世代との協働による人材育成—

体制整備 H25

「とちぎ終章学センター」設置（専任教員等配置）、キックオフシンポジウム開催

教育 H25～H27

基盤教育科目「とちぎ終章学総論」の開発(H25)

関連科目を含め3科目開講(H26)

「とちぎ終章学総論」の完全 必修化(H27)

副専攻プログラム「Learning+1(高齢者共生社会)」開講(H26)、**拡充(H27)**

研究等 H26～H27

地域志向教育研究支援事業（栃木県の地域課題を対象とした教育研究公募）

20課題総額1,000万円を支援(H26)、**17課題総額700万円を支援(H27)**

社会貢献 H26～H27

社会人向け人材養成講座

「終章コミュニティワーカー養成講座」開講

20名募集→108名応募→22名受講

民生委員、高齢者サロン運営、医療・福祉等

←高いニーズ

【第1期(H26):講義2科目、演習1科目開講:合計4単位実施】

【第2期(H27):演習2科目4単位実施】受講生22名全員修了 ←高いモチベーション

発展

H27採択→H31完了

知（地）の拠点大学による人材育成地元定着推進事業（大学COC+）

—輝くとちぎをリードする人材育成地元定着推進事業—

事業概要 本学がCOC+大学の中心となり、栃木県を事業協働地域として、県内外のCOC+参加校、県内の経済団体、企業と連携し、「とちぎ学」などの地域指向型科目を設定するなどして、地域を理解し地域産業の発展に貢献できる人材の育成等を行う。

体制整備 H27

COC+推進コーディネーターの採用、COC+円卓会議、COC+運営会議の設置・開催、専用ホームページの開設、キックオフシンポジウムの開催

教育 H27

農学分野における地域志向科目の前倒し実施、合同企業・公務員等説明会をキャリアセンターと共催（企業・自治体等70社以上、学生1,700名参加）

地域人材育成の基盤強化に係る実績

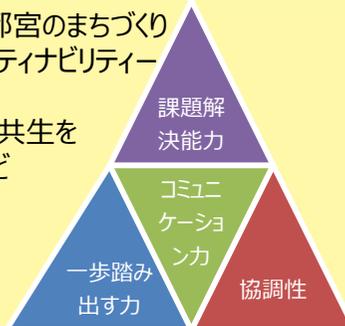
■アクティブ・ラーニング教育強化の実績

科目数の拡充



アクティブ・ラーニング科目の高い学生授業評価 → 4.52点(満点5点)

- ・実践！宇都宮のまちづくり
- ・里山のサステナビリティを考える
- ・人と自然の共生を考える など



大学教育再生加速プログラム (A P)

H26採択 → **H27成果** → H30完了

アクティブ・ラーニングの深化と拡充



アクティブ・ラーニングの体系化

- ✓ 授業の到達目標を確認
 - ・学生アンケート：自己肯定感
 - ・授業担当教員アンケート：効果検証
- ✓ 到達目標と能動的学修手法の関係確認
 - ・AL科目担当教員アンケート
- ✓ 能動的学修手法と行動的知性養成の関係確認
 - ・アクティブ・ラーニング・チャート

多面的学修評価システムの開発

- H26
 - ◆ 基幹システムの導入
- H27
 - ◆ 基幹システムの稼働と既存システムのICT化及び本システムとの統合

行動的知性ルーブリックの確立

行動的知性ルーブリック

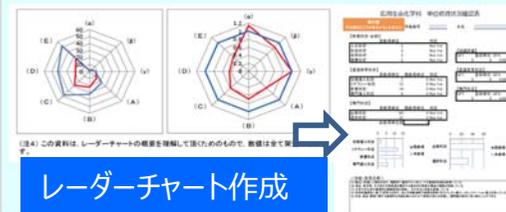
	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
論理的思考力		科目A○	科目B○ 科目C○	
創造力	科目A○	科目C○		
協調性		科目B○		
傾聴力		科目B○	科目A○	科目C○

- ◆ 各科目の到達目標をプログラムごとに集約
- ◆ 授業担当者アンケート結果をルーブリック上にマッピング
- ◆ 行動的知性獲得の面から体系化・可視化を実現

■教育の質保証の実績

●学修成果の可視化

- 22年度 達成目標マトリックス作成
- 24年度 目標達成度をチャート化
- 25年度 ポートフォリオとともに学生への個別指導で活用開始



ポートフォリオと合体

●教育プログラムシラバスの徹底と公開

- 全教育プログラムの3Pとカリキュラムツリー作成・公開
- 23年度～ 学士課程公開
- 25年度～ 修士課程公開

産業界のニーズに対応した教育改善・充実支援体制整備事業

H24採択 → H26完了 → **H27継続**

「関東山梨地域大学連携による産業界等のニーズに対応した教育改善」
(産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業H24採択)

関東山梨地域産学協働協議会

- ・グループ全大学 (14校)
- ・地元の産業界 (13団体)

関東山梨地域大学グループ協議会

グループ全大学 (14校)

キャリア開発科目の高次化グループ

学修評価・指導方法の開発グループ

インターンシップの高次化グループ

宇都宮大学がインターンシップのノウハウを提供

本学のインターンシップ派遣実績

種別	H25	H26	H27
課題発見・解決型インターンシップ	5	14	7
国際インターンシップ	17	15	19

新たな大学院組織の設置

H26設置認可 → **H27設置**

大学院教育学研究科専門職学位課程
「教育実践高度化専攻 (教職大学院)」

特長：

栃木県教育委員会との強固な連携による教師力の向上
→ 定員15名中、現職教員枠10名

大学院工学研究科博士前期課程
「先端光工学専攻」

特長：

本学の強み・特色を活かした光工学に関する基礎から応用までの3つの科目群 (基礎光学、応用工学、感性画像工学)

グローバルリーダー育成に係る実績

■ 基盤教育での英語教育(EPUU)の改革

文部科学省プロジェクト経費（平成21年度～23年度）

プロジェクト終了後も持続的発展

改革成果の発現

TOEIC向上、高い学生評価、
他大学から相次ぐ視察
(H22～H27の間、17件)



平成25年度大学英語教育学会賞（実践賞）!!

27年度

学部別上級
科目の新設

Advanced English I (EAP(International Studies))
Advanced English I (EAP(Education))
Advanced English I (EAP(Engineering))
Advanced English I (EAP(Agriculture))

1年次TOEIC平均点 入学時411点→1年終了時455点

26年度

- ◆ 海外英語研修プログラム（基盤・専門） 単位化と経費支援
- ◆ クリニック対象者の拡大 TOEIC550点以上+全1年生 約600名→1,500名

■ 「とちぎグローバル人材育成プログラム」

<26年度>～

● 「グローバル・リテラシー共通科目」

栃木県、大学コンソーシアムとちぎとの連携・支援

- ・グローバル・リテラシーに関わる科目を長期休業中に開講
- ・8単位以上の履修者に修了書

『開講・受講状況』

受講者は延べ人数

年度	共通科目数	うち本学開講	受講者数	うち本学学生
26年度	16科目	7科目	212名	173名
27年度	21科目	8科目	282名	245名

● 「海外留学・海外インターンシップ支援」

<27年度>～

栃木県、栃木県経済同友会、大学コンソーシアムとちぎとの連携・支援

「基礎コース」

- ◆ 渡航費(関連経費)を支援
- ◆ 支援額（上限）
 - ・アジア地域 10万円
 - ・アジア地域以外20万円
- ◆ 募集人員 40名程度
- ◆ 留学等期間
 - ・海外留学:1ヶ月程度～
 - ・海外インターンシップ:2週間～

- ◆ 応募条件【基礎・上級コース共通】
- ・共通科目6単位修得等

採択状況

- ◆ 合格者数 16名
(アジア8名、アジア以外8名)

「上級コース」

トビタテ！留学JAPAN
「地域人材コース」として実施

- ◆ 支援内容
 - ・奨学金（派遣先に応じて月額12万円～20万円）
 - ・渡航費（アジア地域10万円、その他の地域20万円）
 - ・授業料 30万円
- ◆ 募集人員 5名程度
- ◆ 留学等期間 3ヶ月～2年未満

採択状況

- ◆ 合格者数 5名
(アジア4名、アジア以外1名)



■ 「グローバルサイエンスキャンパス」事業

<27年度>～

「君が未来を切り拓く!」～宇大の科学人材育成プログラム～



● 期待される効果

- ◆ 高水準の研究体験→自信
- ◆ 実践的な英語運用能力
- ◆ 様々な理系職業への展開

H27実績

プラン	期別	募集人員	応募者	倍率	合格者	修了者
基盤	第1期	30	81	2.7	44	41
	第2期	30	53	1.8	31	30
計		60	134	2.2	75	71

■ 独自奨学金によるグローバル人材育成

*プログラムの構築（工学研究科）
H22:東フィンランド大学
H24:アイルランド国立大学ダブリン校

○ダブル・ディグリー・プログラム*による学生の派遣支援

派遣実績:H24-H27 3名（2名学位取得、1名履修中）支援額合計:3,750千円

○理工系分野における優秀な学生・若手教員の海外派遣支援

学生派遣実績:H25-H27 延べ9名（工学6名、農学3名）支援額合計:9,000千円

教員派遣実績:H26-H27 4名（工学1名、農学3名）支援額合計:8,000千円

地域イノベーションの創出に係る実績

「Project ichigo」 – 日本産イチゴの世界進出を目指す –

- 安全安心な高品質イチゴ
世界初：高濃度CO₂ 処理による
害虫防除法 “農薬”登録

ベンチャー設立



- 文部科学省 大学発新産業創出拠点プロジェクト(H25～)
UU農工連携プロジェクト

栽培・品質管理システム開発

×

高品質保持の流通
新技術

=

完熟イチゴを高品質で
世界の消費者へ

成果

発展

文部科学省特別経費 しもつけバイオクラスター(H22～H24)

産学官一体活動による地域バイオ事業クラスターの構築

- ◆ 地元企業や県内公的研究機関との共同研究を実施 (31件)

完熟イチゴ自動判別・収穫・格納
ロボットの開発

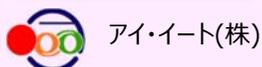


大粒完熟イチゴ用新型容器
「フレシエル®」の開発・実用化(H26)



特許取得(H25)

大学発ベンチャー設立(H26)



文部科学省地域イノベーション
戦略支援プログラムに採択(H26～)

- ◆ いちごの「生産・流通」「機能性開発・加工」分野のイノベーション創出
- ◆ 技術移転・連携・情報共有・セミナー

国際味覚審査機構(ベルギー)優秀味覚賞受賞
2015:二つ星 2016:三つ星



光工学分野における研究推進・地域貢献

光学教育研究センターを基盤とした取組

キヤノンとの連携

顕著な研究業績

- 「戦略的イノベーション創出推進事業 (S-イノベ)」などの研究資金の確保→特許の創出
- インパクトファクターの高い論文誌への掲載や学会賞受賞など高評価の論文の産出

世界的研究拠点の形成

- 米アリゾナ大学との「光学イノベーション推進事業」を展開
アリゾナ大学の研究者の招へい、本学研究者の派遣、世界各国の研究者の受入等により共同研究を推進
- センター長が「国際光工学会」会長に就任 (アジア初) (H27)

地域の拠点形成

- 栃木県の5大重点新興産業「光」分野をリード
「とちぎ光産業振興協議会」(110団体加盟、会長：本学)
- 地域産学官共同研究拠点形成
「光融合技術イノベーションセンター」を学内に設置 (H23)



超高速
超大容量
光メモリー
システムの
開発



谷田貝センター長が
栃木県文化功労者
として表彰 (H27)

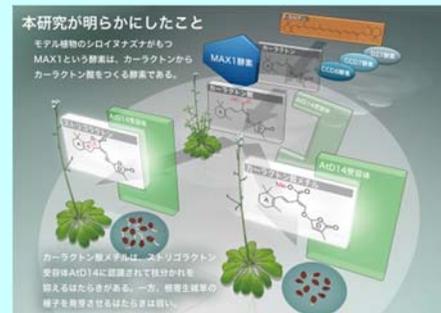
新領域・融合領域等においてダイナミックな研究活動を発展するとともに、若手研究者育成等の研究推進サイクルを持続的に循環させる本学を代表する研究ユニットを全学で支援する本学独自の制度

- 採択課題：植物分子コミュニケーション研究拠点

植物に関連する分子生物学関連研究を行う農学・工学分野の教員で構成された融合研究ユニットにより、実用的かつ世界的に高く評価される分子制御技術の確立

多大な研究成果への結実

- ◆ ユニットから出された論文が高い評価
→ 「第3回リサーチフロントアワード (H24)」や「Highly Cited Researchers 2015」などに選出
→ 公益財団法人農学会「日本農学進歩賞」(H25) や公益財団法人日本科学協会「笹川科学研究奨励賞 (H25)」を受賞
- ◆ 競争的研究資金の獲得
→ 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (H27～H29) を2件獲得



本研究が明らかにしたこと

モデル植物のシロイヌナズナが持つMAX1という酵素は、カーボクソンからカーボクソン環をつくる酵素である。

ガバナンス改革、人事給与システム改革に係る実績

男女共同参画の推進

「男女共同参画宣言」の制定 (H23)

「男女共同参画推進室」の設置 (H24)

「女性研究者研究活動支援事業」に採択 (H25～H27)

● 成果

- 女性研究者比率の向上
13.1%(H22)→17.1%(H27)
- 宇都宮市男女共同参画推進事業者表彰「きりり大賞」受賞 (H27)

● 主な取組

- 全教職員、女子院生を対象とした意識調査の実施
→セミナー開催、啓発冊子の発行
- 交流とネットワークの活性化
→女性カフェ、男性カフェ (男性の意識啓発)
- 研究環境整備
→研究補助員制度、メンター研修
- 女性教員を増加させるためのアクションプラン (第二次) の提案



メンター研修

学長戦略経費の増額による重点配分

H24: 80,000千円

1.5倍

H25: 120,000千円

1.17倍

H26: 140,000千円

1.3倍

H27: 182,610千円

主な成果

- 新学部のスムーズな立ち上げと新入生の確保
- 海外派遣学生の飛躍的増加
- 女性、若手研究者の増加

● 重点配分の内容(主なもの)

- 大学改革関連
→新学部関係、改革推進、グローバル関連支援
- 地域貢献活動関連
→経営工学講座 (MOT)
- 教育研究環境整備
→エンrollment・マネジメントIR関連
- 教育研究環境支援
→女性教員採用支援、新任教員研究支援
- 高大接続関連
→グローバルサイエンスキャンパス推進
- 広報活動関連
→新学部広報施策、研究成果等情報発信、若手SDグループ活動支援

人事システムの抜本的改革

教員ポイント制導入 (H24～)

- 弾力的な人事計画により若手教員の積極的採用

→職階バランスの改善

実施

職階	H23	H24	H25	H26	H27	H23→H27
教授	49.4%	49.3%	47.5%	45.0%	44.0%	▲5.4%
准教授	35.3%	35.1%	37.2%	38.2%	42.3%	7.0%
講師	5.7%	5.9%	5.7%	6.5%	4.2%	▲1.5%
助教	9.6%	9.7%	9.6%	10.3%	9.5%	▲0.1%

学長裁量ポイントの大幅確保 (H24～)

- 強み・特色の伸長と大学改革の加速

強化分野	内容	貸与ポイント
新学部の設置	新たな教育研究分野の強化	256
光工学分野の強化	大学院先端光工学専攻設置に向けた強化	499
教員養成力の強化	・教職大学院設置に向けた実務家教員 (158) ・教育委員会との連携強化に向けた教育行政専門家 (100)	258
グローバル人材養成力の強化	栃木県と連携した人材養成プログラムの推進	158
農学系センター拡充改組と専門教育の充実	バイオ・雑草・地域マネジメントに関する教育、研究、社会連携の推進	320
大学間連携の推進	全国教育関係共同利用拠点としての教育力強化	66
地域連携の推進	COC機能の強化	79
情報戦略の強化	IR分析	66
全学センターの強化	地共センター・基盤教育センター・オプトセンター	637
その他	理事教授職留保	400
合計	教授27人分に相当	2,739

教員人事の一元化 (H27～)

- 全学的観点から教員選考を実施

従来 ○採用計画→人事調整会議承認→学部の下に教員選考委員会設置→候補者選定 (教授会) →評議会付議→学長承認

改革後 ○採用計画→人事調整会議承認→人事調整会議の下に教員選考委員会設置→候補者選定 (人事調整会議) →候補者の教育研究業績審査 (教授会) →評議会付議→学長承認 ※人事調整会議メンバー (学長、理事、学部長)

第3期重点構想の概要：「地域の“知”を創造し変革をリードする」(地域の発展を支える大学)

ビジョン

通信・情報・交通などの技術革新を背景として、「グローバル化」や「イノベーション創出」は都市部や大企業だけが直面している課題ではなく、21世紀の地域社会・経済に共通するものであり、更に、少子化・超高齢化社会への対応は喫緊の課題である。このような課題に対して、地域社会・経済がそれぞれの強み・特性を最大限に活用することによって、自立的持続的な発展を実現することは国策としても重要であり、北関東に立地する国立大学として果たすべき使命・役割は大きなものである。

そこで、本学が実績を重ねてきた地域資源と学内資源を活用した教育改革や基礎的・応用的研究及び地域連携を基盤として、**地域の“知”を創造し変革をリードすることによって地域の発展を支える「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化する。**

そのために学長のリーダーシップの下で、「**地域の知の拠点形成**」、「**地域人材育成の基盤強化**」、「**グローバルリーダーの育成**」、「**地域イノベーションの創出**」、「**ガバナンス改革、人事・給与システム改革**」を5大戦略として実行する。

戦略① 地域の知の 拠点形成

新学部「地域デザイン科学部」(H28年度設置)を核として、地域の強み(地域資源・地域特性)を活かしたまちづくりを支える専門職業人の育成や地域との共創機能を強化することによって、地域の地の拠点を形成する。

取組A

地域課題解決機能を強化し地域の知の拠点形成のために、**新学部「地域デザイン科学部」を設置**

取組B

地域開発に貢献する高度専門職業人を育成するために、**新大学院組織を設置**

取組C

地域との共創機能やシンクタンク機能を強化するために、「**地域連携戦略機構**」を設置：**COCの更なる発展**

戦略② 地域人材育成 の基盤強化

行動的知性と実践的専門性を兼ね備え、3C精神(Challenge Change Contribution)を持って、地域において新たな価値の創造を支えることができる人材を育成する。

取組D

アクティブ・ラーニングと体系的学修評価による教育の質向上サイクルの確立のために、「**大学教育推進機構**」を設置：**APの更なる発展**

取組E

人づくりの基盤：**教職大学院**を核とする学校教育の質向上への貢献

取組F

地域イノベーションを支える専門職業人の育成

戦略③ グローバルリーダー の育成

地域のグローバル化や地域からのグローバル化に対応する人材育成とともに、高大連携の拡充により次世代の地域リーダーを育成する。

取組G

グローバルな視点を持って地域に貢献するグローバルリーダーの育成強化(**大学英語教育学会賞受賞プログラム**や「**トビタテ！留学JAPAN：地域人材コース**」等の活用など)

取組H

次代の地域リーダーの育成：**グローバルサイエンスキャンパス**等高大連携事業推進

戦略④ 地域イノベーション の創出

一強みと特長を有する**研究の戦略推進**—
地域志向研究を活性化して、新産業の創出や既存産業の高付加価値化に結びつく**地域イノベーション**を創出する。

取組I

フードサイエンス、ものづくりにおける融合的イノベーションの創出：**地域イノベーション戦略推進地域支援プログラム**を核とする農工融合分野研究プロジェクトの推進

取組J

世界に通じる先端的研究の開発・推進：**光工学研究**の国際ネットワーク形成(H27年度、**先端光工学専攻設置**)、国際的優位性を創出する**フードサイエンス**

戦略⑤ ガバナンス改革、 人事・給与システム改革

学長のリーダーシップの発揮と教職員の意識改革に資する**ガバナンス改革**、ならびに多様で優秀な人材の確保・活用による教育研究の活性化に資する**人事・給与システム改革**を行う。

取組K

教員組織の一元化(**教教分離**)や大学運営を的確にマネジメントする「**大学教育推進機構**」の設置などの**ガバナンス機能の強化**

取組L

年俸制の拡大、クロスアポイントメント制度の導入、業績給の設定、女性教員採用特別制度などによる多様な人材の確保

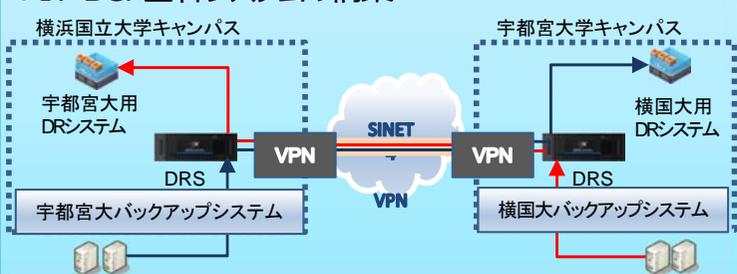
業務運営の改善等に係る取組

情報セキュリティマネジメント(ISMS)

- ISMSの国際規格認証の維持と発展
- ISMSの国際規格ISO/IEC27001認証取得(H19)と第2期期間中の維持(改定国際基準への移行実現)
→さらに、事業継続強化のため、指針ISO27031を含む認証 (ISMS+IRBC)を国立大学で初めて取得(H26)

■ 事業継続計画(BCP)の推進

- 横浜国立大学との間でBCPに関する相互協力を含む情報戦略協定締結(H24)
- IT-BCP基幹システムの構築



若手職員SDグループの設置と成果

- 「宇大あぴ〜る隊！」(H25-H26)
- オリジナルキャラクター「宇〜太」の学内公募と作成
→様々な広報媒体への活用
- 「学生窓口対応向上グループ」(H25-H26)
- 「事務職員学生対応行動指針」の策定・周知

宇都宮大学事務職員 学生対応行動指針

1. 学生一人ひとりの立場で考え行動します
2. 挨拶と笑顔を大切にします
3. 一人ひとりが宇都宮大学の代表であることを自覚します
4. 「迅速」「丁寧」「親切」な対応を心がけます
5. 職員間で情報を共有し、対応の質を向上させます

宇〜太も職員も宇大の顔だよ♪
(学生窓口対応向上グループ、事務部長助産)

■ 「宇大知り隊！」(H27)

- 「宇大トリビア集」の作成・配付 (新入生、オープンキャンパス等)

大学の「見える化」の推進

- 保護者ガイダンスの開催(H24～)
- キャリアフェスティバルの開催に合わせて保護者ガイダンスを開催し、個別面談等を実施→保護者からの高い満足度(76%が内容について「良い」と評価)
- 「アクションプラン2016」の作成(H27)
- 第3期中期目標の達成に向けたビジョン・重点戦略・行動計画をまとめた「アクションプラン2016」を作成 (H27作成、H28学内外に配付)
- 学長による学内構成員への経営方針等の伝達・配信(H27)
- 学長室だより配信(8回)、意見交換会実施 (若手教員、女性教員、若手事務職員、学生)46回251人

「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組

社会の変化に対応した教育研究組織づくり

■ 新学部設置 (H27.8設置認可) (平成28年4月設置)

新学部「**地域デザイン科学部**」
3学科：定員140名

■ 教職大学院設置 (H27.4設置)

大学院「**教育実践高度化専攻**」
定員15名 (うち現職教員10名)

■ 工学研究科に新専攻設置

(H27.4設置) 工学研究科博士前期課程「**先端光工学専攻**」
定員25名 (合わせて既存専攻の定員拡充：197名→212名)

■ センター等の新設・改組

- 「**教職センター**」の設置 (H26)
→教員養成機能の強化 (学長裁量による栃木県との連携人事を実施)
- 生涯学習教育研究センターを改組し「**地域連携教育研究センター**」を設置 (H26)
→大学COC機能の強化
- 雑草科学研究センター、農学部附属里山科学センターを統合・再編し、「**雑草と里山の科学教育研究センター**」を設置 (H26)
→フィールドベースの課題への取組強化

ガバナンス機能の強化、人事給与システムの弾力化

■ 組織及び運営体制の整備

- 教授会の役割の明確化 (H26)
- 学部長選考方法の見直し (学長指名制) (H26)
- 学長補佐体制の強化:特命副学長等の指名 (H27)
- 教員組織の一元化 (教教分離) のH28実施に向けた検討 (H27)
- 監事機能の強化→監査の迅速化による実績評価への適時反映

■ 人事・給与システム改革

- 准教授以下の全新規採用教員にテニュアトラック制 H28実施を合意 (H27)
- 学長裁量ポイントの確保 (全教員Pの7%) →強化分野への戦略的活用
- 教員ポイント制の導入→職階バランスの見直し
- 年俸制の導入

■ 学長のリーダーシップによる機能強化

- 学長裁量経費の戦略的確保(H24:80,000千円→H27:182,610千円2.3倍)
→大学改革、地域貢献、教育研究環境整備、業務運営改善等の実現
- 学長補佐チームの編成→学長のリーダーシップによる学内連携のさらなる推進

